

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和3年度 第1回 相模原市支援教育ネットワーク協議会		
事務局 (担当課)	学校教育課 電話042-769-8284 (直通)		
開催日時	令和3年7月21日(水) 9時00分～11時00分		
開催場所	教育委員会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)	
	その他	3人(別紙のとおり)	
	事務局	5人(三谷担当課長、仲村指導主事、松原指導主事、外2人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	1 開会 2 挨拶 3 委員長・副委員長選出 4 議事 (1) 令和3年度支援教育ネットワーク協議会について (2) 第2次相模原市教育振興計画について (3) 相談支援チームについて (4) 多層指導モデルMIMについて (5) その他 5 閉会		

## 議 事 の 要 旨

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 委員長任命

相模原市支援教育ネットワーク協議会設置要綱第4条に従い、委員長の互選により、安藤委員を委員長として任命した。

### 4 議事

#### (1) 令和3年度支援教育ネットワーク協議会について

事務局より、支援教育ネットワーク協議会の役割について、資料に沿って説明した。

#### (2) 第2次相模原市教育振興計画について

事務局より、第2次相模原市教育振興計画及び令和3年度進行管理シートについて、資料に沿って説明した。

(安藤委員長) キャリア教育の推進についてなにか補足はあるか。

(学校教育課長) 今年度よりキャリアパスポートを全校で実施している。キャリアパスポートは、自分の学習の見通しと振り返りを書くものだが、支援級の児童・生徒がどのように作成をしていくかが課題ではある。今年度中に支援級の児童・生徒のキャリアパスポートのあり方について発信する。

(安藤委員長) キャリアパスポートの概要について説明をいただきたい。

(学校教育課長) キャリアパスポートとは1年間の学校生活を見通して、どのような力を身に着けるかの目標をたて振り返りを行うものである。構成としては、1学期、2学期、3学期に分かれており、学校生活の中で自分がどのようなことをやっていきたいのかを書く。各学期の終わりや学校行事後に自分たちの学びはどうだったのかを振り返り、どのような力が身に付いたかを記載する。

(富川委員) 低学年にもあるものなのか。

(学校教育課長) 全学年作成している。学年ごとに様式があり、小中9年間のものをまとめてファイリングできるようになっている。

(安藤委員長) 学びの部分が漠然としており、分かりにくかったため、次回、どのようなものか資料で提供いただきたい。

(大里委員) 現場もキャリア教育の大切さを意識していく必要がある。

(富川委員) キャリアパスポートについて、支援が必要な児童・生徒は文字を書くのが難しい。キーボード入力等の配慮はあるのだろうか。

(教育センター所長) 支援級には先立って iPad を配付し、動画・写真や音声で残せるように配慮している。

(及川委員) キャリアパスポートは高校まで引き継がれるようになっている。

(松田委員) 個別の教育支援計画・個別の指導計画については、支援級在籍時は充実しているが、通常の学級においては理解と整備が必要である。

(内野委員) キャリア教育を考えた場合、相模原市にとって、その先を考えたときに、中学を卒業した後のキャリアのつながりをどう考えているか。

(学校教育課長) ご指摘いただいた部分は課題と捉えている。高等学校も市内の小中学校がどのようなことをしているのか知ってもらう必要がある。高等学校との連携は必要だと考えている。市内でどのような取り組みをしているのか、9年間でどのような学びをしているのか、今後連携の場を設けることが必要だと考える。

(内野委員) 現在は昔に比べて進学先が多様化している。今後さらに、連携が大切になっていくと考える。

(富川委員) 通常級にも支援を要する児童・生徒がいる。今後、支援員等の増員計画はあるのか。

(学校教育課長) 学校の状況を踏まえながら増員していきたいと考えている。通常級に支援を要する児童・生徒がいることは承知していて、担任の先生方が、児童・生徒の特性を知り、適切に対応することが必要。学校教育課から「発達障害の理解と支援の手引」を発出しているが、今後もより周知をはかりながら、個別の支援計画等を活用し、適切な対応を大切にしていきたい。

(安藤委員長) 夜間中学について説明をいただきたい。

(学校教育課長) 来年の4月に開校するよう進めている。義務教育の中で、学ぶ機会が得られなかった方を対象に設置するが、学校を卒業されて時間がたった高齢の方や、外国籍の方等の学び直しの機会を設ける。日本語学校にならないように、という声が聞こえるが、そのような趣旨ではない。市民説明会等で、入学希望者には面接でどのような学びをしたいのか聞いたうえで入学を進めたいと思う。

(安藤委員長) 入学希望者は相当な人数になるのではないか。

(学校教育課長) 定員は30名程度としているが、市内だけではなく、広域的な枠組みで考えている。今後、県や周囲の地域と連携を進めていく予定だが、県や市で行っているアンケートでは40～50名程度が入学を希望していると把握している。

### (3) 相談支援チームについて

事務局より、相談支援チームについて、資料に沿って説明した。

(安藤委員長) 相談支援チームができたことについて評価したい。

(千谷委員) 似たようなものは10年間で何度もやっていたが、今回の連絡会前にシートができていたことで、出席者が話したいことがまとまっていたと感じる。参加者がこれからの使い方を実感できたところが良かった。

(内野委員) 市内3校の特別支援学校としても、各校の特徴を活かしながら活用していきたい。全体で情報共有しながら考えていけば、より機能的になると考える。

(及川委員) 学校としても役に立つと感じた。非常勤介助員・支援教育支援員は学校教育課で配置していると承知しているが、教職員人事課でも別職種の任用があるので、教職員人事課も絡んでいく方がいいと感じる。

(学校教育課長) ご指摘いただいた部分も踏まえて教職員人事課と連携していければと思う。

(大里委員) 今まで行政の指導主事が抱えていたことが、共有シートによって学校の先生に情報が伝わりやすくなってとてもいいと感じた。これを活用し、一人一人の先生が理解を深めていけたらより良いと感じる。

(松田委員) コーディネーターだけではなく、校長へも広めていきたい。

(千谷委員) 個人情報保護管理については難しさがあるので留意してほしい。

(学校教育課長) 非常に重要な部分となっており今後研修や学校訪問で、担当の先生方に個人情報保護管理について改めて留意するように伝えたい。

#### (4) 多層指導モデルMIMについて

事務局より、多層指導モデルMIMについて、資料に沿って説明した。

(千谷委員) 通常級で、個に応じたユニバーサルデザインの授業が行えれば、支援を要する児童・生徒が減ると考える。

(内野委員) MIMの活用は、全ての教員が活用できることを想定しているのか。研究推進校の役割の中で、校務分掌で担当者を決めるとあるが、担当者と担任の関係性はどうなっているのか。保護者への説明は担任がするのか、担当者からするのか。

(事務局) すべての職員には多層な児童・生徒の支援が大事であるということを周知していきたい。ただし、1年生の担任については、その具体的な内容について理解をしてもらおう。また、保護者の周知については、学校の個人面談等で結果を提示し、役立てている学校もあると承知している。

(内野委員) 保護者への説明ができるように専門性が必要である。

(安藤委員長) どのようなことが問題なのかを分析する必要がある。MIMだけでは分析が不足と感じるので、別のものも合わせて検討しないといけない。特に1年生については読みだけではなく、算数も用いることで効果が上がる。

(松田委員) 各校には、授業改善リーダーが指名されているため、MIMについても

全校的に周知していく必要がある。指導力の向上とあるが、職員の経験も違う中で、スタンダード化されたもので取り組めるのは、担任としても心強いし児童・生徒にとってもとても有効なのではと感じる。

(安藤委員長) LDの児童には、読みだけではこの授業が辛いものになる。読みだけに特化するのではなく、もう少し広げていくべきと考える。

#### (5) その他

事務局より、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律について、資料に沿って説明した。

(富川委員) 人工呼吸器を使用している児童・生徒も地域の学校で受け入れる、とあるが、児童・生徒の安全を考えると難しいところもあるので、児童・生徒が安全に医療的ケアを受けつつ学校生活を送れる部分の到達点について、検討を進めていく必要がある。また、地域の学校は建物が古いところが多いため、施設の改築を進めていく必要がある。今のままでは教職員が足りない。各教職員の負担を減らすためにも、教員を増員し、看護師の確保も課題である。

(安藤委員長) 現在の医療的ケア児の人数を知りたい。

(事務局) 現在は小学校7校に9名の医療的ケア児がいて、各児童に看護師を配置している。

(安藤委員長) 看護師配置の先の見通しはどうなっているのか

(事務局) 次年度は3人の医療的ケア児の入学が予定されているが、正確な数字についてはまだ先になる。

(富川委員) 新生児医療の発達に伴い、在宅医療の必要な子供が増えていることから今後医療的ケア児が増加していく可能性は非常に高い。

(安藤委員長) 就学前の保育園や幼稚園で医療的ケアを行っているケースはあるのか

(事務局) 2園で4人実施している。

(富川委員) 公立の保育園や幼稚園ではその人数だが、私立の幼稚園や保育園でも受け入れているケースがあるため、学校へ入学すると予想される人数は増えてくると思われる。

(安藤委員長) 保育園でも看護師の配置は行っているのか。

(富川委員) 保育課で任用して配置している。

(内野委員) 看護師の確保は大きな課題である。

事務局より、上溝中学校通級指導教室の視察について、説明した。

(及川委員) 上溝中のサポートルームには、他校からくる生徒を含めて約40名いる。

コミュニケーション能力の低い生徒が、教員との授業やゲームの中で能力を養っている。教員は4名いるが、生徒も授業等を通して自己理解を深めていると感じる。生徒の状況は在籍校にも共有している。

事務局より、支援教育の総括機関に関する検討について、資料に沿って説明した。

(大里委員) 今までも支援教育を一つの機関にまとめる案が出てきたが、メリット・デメリットがある。支援教育が広がってきて、一つの機関で全部を負うのは重たくなる部分がある。

(松田委員) 学校側としては、一つの機関にまとめた方が便利であるとの声もある。まとめるのであれば、行政として覚悟をもって、大きなものをつくらないといけないと感じる。

(及川委員) 一般の教員のイメージは、今の機関で定着していると感じる。

(千谷委員) ユニバーサルデザイン・ダイバーシティでやっているが、支援教育だけで取り出すのか、と感じる。

(内野委員) 県の機関を考えると、研修と相談を統合するのは想像できるが、施策の部分は難しいと感じる。

(青少年相談センター所長) メリットは、3つの機関に分かれていることで、教育委員会全体で支援教育を考えていけている。デメリットとして、連携を図るには距離があり、改めて集まる機会を設ける必要があり、大変な部分もある。また、私見だが、1つ1つの案件が非常に重いため、1つにまとめることで負担が偏ってしまうのではないかという懸念はある。

(教育センター所長) 理念が全体に浸透していると感じる。現状の支援体制がベストではないがベターではないかを感じる。一括するのであれば、大きな機関が必要。

(学校教育課長) 機関を分けることで連携が難しくなると感じていたが、各機関の担当者が集まる機会を設けて日常的に連携できていると感じる。すべての視点で支援は関わる事なので、様々なセクションで支援教育の理念を持つ必要がある。

(学校教育課長) 学校がどこに相談していいのかわからない部分もあると思うが、相談支援チームを活用していけるとよい。

(安藤委員長) 組織改編については、行政職の意見を聞く必要がある。

## 5 閉会

## 令和3年度相模原市支援教育ネットワーク協議会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	安藤 正紀	学識経験者	玉川大学大学院 教育学研究科教授	出席
2	大里 朝彦	学識経験者	相模女子大学 子ども教育学科 特任教授	出席
3	富川 盛光	医師	相模原市医師会 理事おださが小児 アレルギー科院長	出席
4	千谷 史子	臨床心理士	こども広場 ワンダーステップ 所長	出席
5	内野 智之	神奈川県立特別支援学校	神奈川県立 津久井養護学校学 校長	出席
6	松田 知子	市立小学校長会	相模原市立 作の口小学校長	出席
7	及川 秋人	市立中学校長会	相模原市立 上溝中学校長	出席

<オブザーバー>

8	宮原 幸雄	教育局 学校教育部 教育センター	所長	出席
9	水野 正人	教育局 学校教育部 青少年相談センター	所長	出席
10	松本 祥勝	教育局 学校教育部 学校教育課	課長	出席